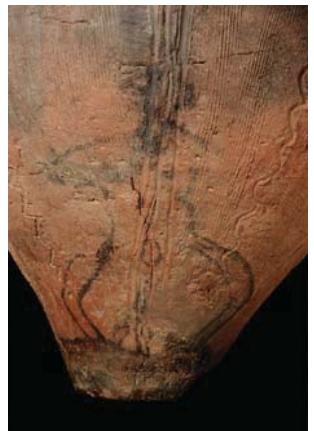


# 命への深い思い

## ◆井戸尻考古館 特別公開

富士見町で「土器」といえば縄文土器を思い浮かべます。でもそれが「世界で最も豪華な土器」と呼ばれたほど優れたものであることは、身近にありすぎてピンとこないのも事実。なぜ井戸尻の土器が世界で最も豪華だといわれるのでしょうか。

それは世界各地に多い「磨いた器面に絵を描いたもの」ではなく「思いや神話を立体的に造形したもの」だからです。縄文土器には三角や円など幾何学的な模様を描いたものもありますが、具象的な絵画を描いたものはありません。そう、ただひとつを除いては…。



## 【日本でただひとつ】

とうどのみや 烏帽子の唐渡宮遺跡で昭和43年に出土し、町の有形文化財にも指定されている深鉢の底近くには、人の姿が描かれています。いまのところ日本で唯一、具象的な絵画が描かれている縄文土器なのです。村はずれの穴に、小ぶりな土器2つと共に立てられた状態で埋められていたと報告されています。

およそ4,200年前のもので、高さ63cm、口径50cmの大きな土器。絵画は黒色の顔料で、毛筆を使ったかのような滑らかなタッチで描かれています。描かれているのは両手をひろげて立つ女性の姿で、踏ん張った両足の間から何かが地面に向かって落ちています。その様子から出産の状景を描いたものと推測されています。

しかし、この女性は顔が黒く塗りつぶされていますから、もしかするとお産によって命を落としたのかもしれません。そしてその亡骸を土器に入れて葬ったのではないかと考えられます。赤ん坊は無事成長したのでしょうか。

実はこの土器、紫外線により絵が退色する恐れがあるため常設展示することができず、収蔵庫の暗がりで保管され、数年ごとに期間限定で公開されてきました。今回の特別公開は3月31日までですが、今後の公開は今のところ未定です。

## 【不死の象徴、蛇】

みなさん知っていますか？  
“Star of Life”。救急車についている、水色のマークです。その星形の中に、ヘビが絡みついた杖が描かれています。

これはギリシャ神話に登場する、死者をもよみがえらせる能力を持った名医アスクレピオスの持つ杖をデザインしたもので、医学、救急医療のシンボルとなっています。



Star of Life

ヘビは古今東西を問わず、不死や再生を象徴する生物でした。脱皮を繰り返して生長する姿に、不老不死の力をみたのでしょうか。

縄文土器の中で、中部高地から西南関東にかけて広がっていた井戸尻文化の土器には、様々な姿のヘビが形づくりられています。彼らもまた、ヘビに不死の力をみていました。巳年の年始めにあたり、ヘビの造形を集めてみました。企画展示として6月31日までご覧いただけます。

芸術的ともいわれる井戸尻文化の土器ですが、そこには命への深い思いが刻みこまれています。この機会にぜひご覧ください。



# 藤内遺跡出土品231点取得 (石器131点・土偶3点・土器97点)

藤内遺跡はJR信濃境駅の北方約500mの鳥帽子地籍に位置し、今から約4500年前の縄文遺跡です。昭和29年以降数次にわたり発掘が実施され、出土した土器は、装飾が華やかで縄文土器造形の到達点として国からも高い評価を受けており、有線帳の表紙を飾った、神像筒型土器など199点は、国の重要文化財に指定されています。

今回、藤内遺跡から出土した石器・土器合わせて231点（石器131点・土偶3点・土器97点）を一括して町が購入することになりました。これらの出土品は昭和37年に開墾と農作業によって発見され、国から個人に譲与された個人所有のものです。当時は農地の構造改善など経済優先で遺跡が壊されていく中、所有者が早くからその価値に気付き、土器等を丹念に修復し、遺跡と遺物は切り離したら意味がなくなるという思いからこれまで約50年間にわたり大事に保管され、一部は考古館で展示し公開されてきました。しかし所有者が高齢になられたことや保管等の問題から散逸が懸念され、急遽、取得を検討することとなりました。

町ならびに教育委員会は、藤内遺跡の出土品であり、国の重要文化財級の貴重で価値のある資料がいくつもあること。その散逸を防ぐこと。町民の恒久的な財産となり、教育文化に資する大切な文化財として活用できることなどから取得することとしました。

今後は、国宝や重要文化財として、追加指定となるよう国（文化庁）に働きかけを行い、同時にその価値を多くの方に知っていただくため展覧会を企画し公開します。

また遺跡についても、国史跡を視野に入れ、保護・活用をはかっていくよう国からも指導されていることから、町では「藤内遺跡保護活用計画」を作成し、今後遺跡の範囲確認調査や内容確認調査などを計画的に進めていきます。

問 生涯学習課 文化財係 ☎64-2044



ごじゅうふかばち  
五重深鉢



くかくもんふかばち  
区画文深鉢



じやもんほうしんふかばち  
蛇文方神深鉢



しほうしんめんもんふかばち  
四方神面文深鉢

## 井戸尻文化講座 受講生募集

今をさかのぼることおよそ5千年、八ヶ岳山麓を中心に、中部日本から関東にかけて「井戸尻文化」と呼ばれる文化が展開していました。今回の講座では、その深い精神性と世界観、遺された器物や村の痕跡から考えてゆきます。どなたでも受講できますので、どうぞご参加ください。

- |       |                              |
|-------|------------------------------|
| 【開催日】 | 3月10日(日)                     |
| 【テーマ】 | 土器の来た“みち”<br>～井戸尻文化の中部高地と北陸～ |
| 【講 師】 | 井戸尻考古館 学芸員 小松隆史              |
| 【会 場】 | コミュニティ・プラザ 大会議室              |

問 生涯学習課 文化財係 ☎64-2044

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 【開催日】 | 3月17日(日)           |
| 【テーマ】 | 半分の身体像 ～その土器図像と神話～ |
| 【講 師】 | 井戸尻考古館 前館長 小林公明    |
| 【会 場】 | 町民センター 大会議室        |

●時間 午後1時30分～ ●受講料 無料  
※事前申し込み不要